

報告事項キ

「読書フェスティバル」の実施結果について

「読書フェスティバル」の実施結果について、別紙のとおり報告します。

平成19年12月21日

鳥取県教育委員会教育長 中 永 廣 樹

「読書フェスティバル」の実施結果について

家庭・地域教育課

1 趣 旨

身近な地域における読書活動の機運を醸成するため、講演や児童文学をテーマにした劇団公演、参加・体験型の読書活動等を実施する読書フェスティバルを開催し、子どもから大人まで参加者が読書活動を身近に感じ、今後積極的に読書に親しむ機運を高めるとともに、子どもの読書活動に対する理解の促進を図った。

2 概 要

- (1) 開催期間 平成19年12月15日(土)、16日(日) 2日間
- (2) 会 場 鳥取県立県民文化会館
- (3) 来場者数 **延べ6,000人(2日間合計)**
- (4) 主 催 読書フェスティバル実行委員会
〔 構成員：民間の読書活動関係者、(学校)図書館関係者等
事務局：県教育委員会家庭・地域教育課 〕
- (5) テ ー マ 「本とのであい ひろがれ想像力」

3 イベントの概要

(1) 記念講演：12月15日(土) 午後1時30分～3時(梨花ホール)

- 講 師…林 望さん(作家・書誌学者)
- 演 題…こんなに素敵な古典文学
- 内 容…堅苦しいイメージの古典文学について、
軽妙な語り口で楽しい実例を交えながら
その魅力についてわかりやすくお話し
いただいた。

○参加者…550名



(2) 劇団公演：12月16日(日) (梨花ホール)

午前10時30分～12時 午後1時30分～3時

- 出 演…劇団あとむ
- 演 目…あとむの時間はアンデルセン
- 内 容…アンデルセン童話をもとに、肉声と
表現豊かな動きで舞台を創造し、観
客の心を捉えた。

○参加者…710名



(3) パネルディスカッション：12月16日(日) 午後1時30分～3時(小ホール)

- テーマ…読む力ってなんだろう？
- 登壇者…コーディネーター 齋藤 明彦 さん(鳥取県総務部自治研修所所長)
助言者 斎藤 惇夫 さん(児童文学作家)
パネリスト 伊達 季代子さん(愛真幼稚園園長)
榎 ますみさん(倉吉市立上灘小学校司書)
伊木 洋 さん(米子市立後藤ヶ丘中学校教諭)
- 内 容…子どもを取り巻く読書活動の現状や課題などについて、県内の関係者が議論
を行い、子どもたちの「読む力」について考えた。

○参加者…約80名

(4) ワークショップ：フェスティバル期間中(会議室ほか)

子どもたちによる詩の朗読、お父さん限定の読み聞かせ講習会、親子で楽しむわらべうた、ブックトーク、民話の語りなど様々な体験ができるワークショップを開催した。

①12月15日(土)

○絵本でコミュニケーション

・親子で楽しむおはなし会

<約40組参加>

・お父さんだっ、絵本時間(お父さん限定の読み聞かせ講習会)

<43名参加>

- 子どもたちによる詩の朗読・合唱
 - ・めぐみ保育園園児 < 29名参加 >
 - ・鳥取市立神戸小学校児童 < 41名参加 >
 - ・鳥取市立桜ヶ丘中学校生徒 < 5名参加 >
- 語りの部屋（おはなしポケットの会、県立図書館） < 44名参加 >
- 中高校生によるフリートークセッション（高校生18名出演） < 約130名参加 >
 - （八頭高等学校3名、鳥取東高等学校9名、鳥取西高等学校2名、鳥取湖陵高等学校3名、倉吉市立図書館でヤングアダルトコーナーの活動をしている高校生1名）

②12月16日（日）

- 宇田祥子さんのたのしいブックトーク < 46名参加 >
- 語りの部屋（鳥取市立中央図書館、中嶋須美子さん、とっとり民話を語る会、倉吉民話の会、ほうき民話の会、さじ民話会） < 172名参加 >
- 小林衛己子さんのわらべうた
 - ・親子でたのしむわらべうた < 105名参加 >
 - ・大人向け講習会 < 91名参加 >
- 中高校生のための読書ボランティア体験コーナー < 13名参加 >

(5) 展示コーナー：フェスティバル期間中（フリースペースほか）

鳥取にゆかりのある作家の原稿・原画などの展示、学校や家庭・図書館における読書の取組紹介、ケータイ小説など新たな読書の形態紹介など様々な展示を行った。 < 17の企画展示 >

(6) 「絵本ワールド in とっとり2007」の同時開催

約1万冊の絵本や児童書の展示販売、読み聞かせや体験コーナーなどにより、多くの親子連れで会場がにぎわった。

4 今回のフェスティバルの特徴

(1) 読書活動グループの横断的な連携

従来は、各グループ単位での活動を中心に行っていた団体も、フェスティバルという1つのイベントを作り上げる過程の中で、互いに連携・協力し合い、それぞれの得意分野で力を発揮しながらイベントを成功させたことにより、今後、それぞれが活動していく上で相互に協力し合えるネットワークを構築することができ、大きな成果を得ることが出来た。



(2) 民間企業とのタイアップ

地元新聞社をはじめ書店商業組合など、民間企業が中心となって取り組んだ「絵本ワールド in とっとり2007」と県教委や図書館が中心となって取り組んだ「読書フェスティバル」を同時開催することにより、「民」と「官」それぞれの長所を取り入れ、参加者にとって魅力あるイベントを開催することが出来た。

(3) 高校性ボランティアの活躍

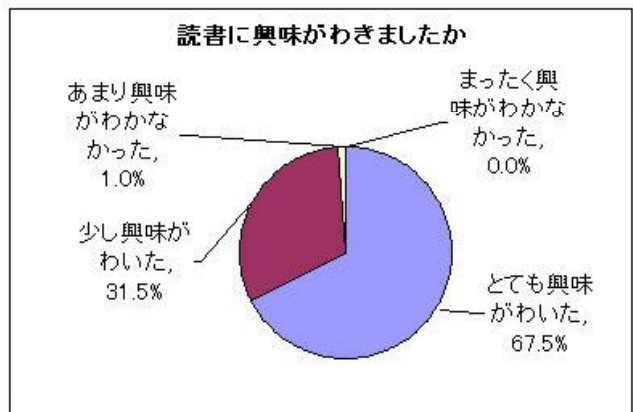
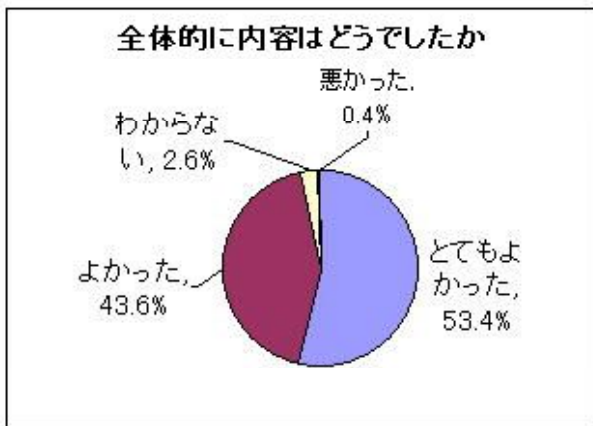
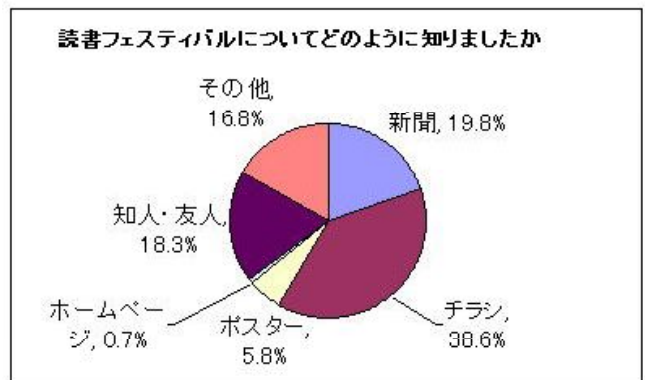
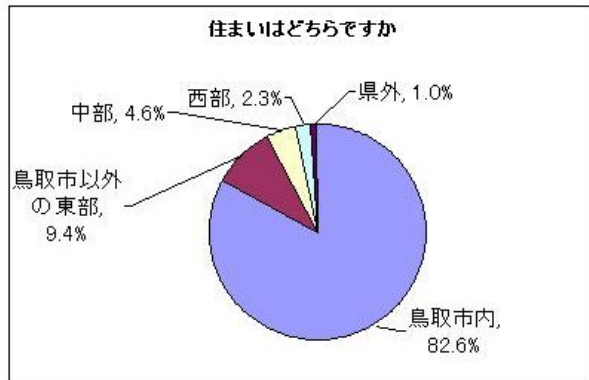
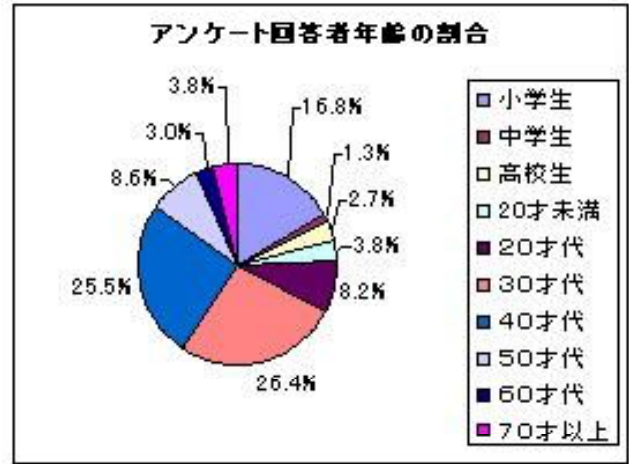
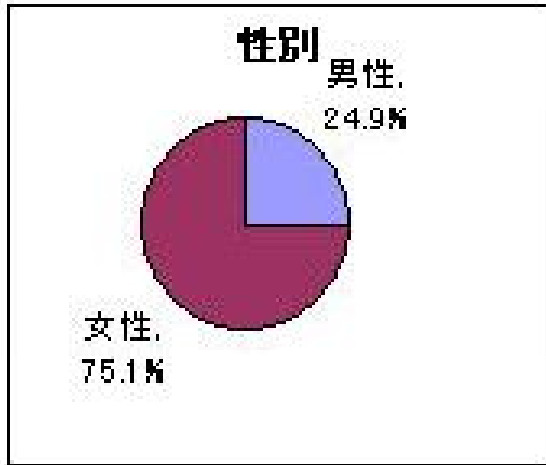
鳥取西高校、鳥取敬愛高校、鳥取城北高校など、東部地区の高校生が司会や、ワークショップのサポートなど、ボランティアとしてフェスティバルの運営を積極的にサポートしてくれた。
（鳥取敬愛高等学校8名 鳥取城北高等学校6名 鳥取西高等学校3名）

(4) 大学等との連携

鳥取短期大学、鳥取大学の学生が、講義の一環として、また、ボランティアとして読書フェスティバルの運営をサポートしてくれた。

- ・鳥取短期大学ボランティア8名
- ・鳥取短期大学学生が講義として参加 127名
- ・鳥取大学学生が講義としての参加 30名

〈来場者アンケート結果〉 回収数：男性118名 女性355名 合計473名



○自由記述意見

- ・こういう取組は大切なので東・中・西ローテーションでも続けていただければと思います。チラシの宣伝もよかったですと思います。
- ・子どもたちの詩の朗読、合唱がとても感激しました。今の小学生や中学生の子どもたちがもっと本に興味を持てるようこのような参加型のイベントは良いと思う。
- ・盛りだくさんで、見るのも時間が一杯でした。
- ・とてもすきな催し物です。このような機会があって、林望さんの講演も聴くことができましたし。でも、このような機会がないと、読書がひろがらないということなのですね。
- ・主催者の方から中高生に照準を合わせたと聞きまして良いことと思いました。中高生は部活でいそがしく本を読まないと言われていますが、読んで時間を忘れる程、おもしろい本を知らないのではないかと、思ったりします。